

市主体の農業スクールで、働きながらも農のある暮らしの実現へ

- 生駒市は、大阪府と京都府に隣接し、市全体が都市計画区域である。
- 生活様式が変化する中で「農のあるライフスタイル」への関心が高まっていることから、マルチワーク等で農業に取り組む方の農業への参画を促進することを目的に、令和4年8月より幅広く野菜づくり（きゅうり、白菜、白ネギなど）を学べる社会人向けの農業研修を開始した。
- 令和5年度からサポート体制構築事業を活用し、研修の充実により新規就農者の確保を図る。

【位置図】



奈良県生駒市

取組前

- 小さくて不整形な田・畑が多い地域である。
- 農業者の高齢化や担い手不足が課題であり、新たな担い手の確保及び農地の有効活用が必要。

<市内農業者の平均年齢>
69.6歳
※2020年農林業センサス

取組内容

- 「いこまファーマーズスクール」を開催。共同体験農園における毎週末の実習を中心に、1期6か月間の研修を通年で実施。1期あたり15組(30名)を募集。
- 同スクール修了後、希望者は市内の認定農業者の元で研修を継続し、本格的に農業を学ぶことも可能。



取組後(成果)

- 令和5～6年度に延べ84名が研修に参加。
 - 卒業生のうち3組4名が新規就農。
 - 卒業生には、特定農地貸付法により市内の遊休農地を借受ける者、市民農園を利用する者、市内農業者のサポートを担う者がおり、本市の遊休農地解消の一助となっている。
- <新規就農者数>
令和6年度…3組4人
※いずれも1期生

【サポート体制】

- 生駒市役所
就農希望者向けに農業全般に関する研修を実施。研修生への補助制度等の紹介等、就農後のサポート。
- J Aならけん、県北部農業振興事務所
技術、経営に関すること
- 農業委員会、なら担い手・農地サポートセンター
就農後の農地のあっせんに関すること

新規就農者や研修生の声

- まずは市民農園と遊休農地をがんばっていきます。
- 毎回新しい発見があり、とても良かったです。
- とても熱心に教えていただき感謝しています。

サポート体制構築事業 活用年度：令和5～6年度

【問合せ先】生駒市農林課

TEL：0743-74-1111（代表）

E-mail：nourin@city.ikoma.lg.jp

HP：https://www.city.ikoma.lg.jp/category/30-4-0-0-0-0-0-0-0-0.html